

2019年7月7日

中国における環境意識について
—生活の中のエコ—

国際文学部国際文化学科3年

1. はじめに

中国は大気汚染や環境汚染のイメージが強く、留学に来る前までは中国は「エコ」「省エネルギー」という言葉や取り組みとは程遠い国だろうと考えていた。しかし中国に来てコンビニエンスストアで初めて買い物をした際、日本では当たり前に見えるレジ袋が有料であることに驚いた。そのことから中国は日本に比べて環境意識が高く、グリーン社会に向けての準備が進められているのではないだろうかと考えるようになった。そこで今回のレポートでは中国において環境意識はいつから高まったのか、日常生活において一体どんなエコにつながる取り組みが行われているのか調査していく。

2. 環境保護に対する意識の高まり

中国で人々の環境意識が高まった大きな要因は、2008年に開催された北京五輪ではないかと考えられる。実際に、北京五輪の際のテーマの一つに「グリーン・オリンピック」が挙げられている。このテーマのもと、オリンピック組織委員会により「オリンピック工場の環境保護マニュアル」が作成され、競技場建設の過程において、省エネルギー、緑化等の環境保護が導入された建物が建設や¹、再生エネルギーの共有、工場地帯での排出ガスの制限、オリンピック期間中に一部の工場の操業停止を行う²などといった様々な環境保護のための取り組みが実施された。

多くの人々の関心が集まる五輪においてこのような取り組みが実施されたことは、中国人の環境に対する意識を変えたと言えるのではないだろうか。

¹ 【第9回】変化を見せ始めた中国人の環境意識

中国環境ビジネス中国・アジア新興国特集

<https://www.k-zone.co.jp/study/learning/emerging/china03/09.html>

(2019年6月28日)

² 中国大気汚染物質 (PM2.5) 飛来問題と日本への影響北京オリンピック開催の影響は？

<http://www.act-earth.org/tyuugokutaikiosennbussitu/post-11.html>

(2019年6月30日)

3. レジ袋の有料化について

初めにも述べたが、中国に来た際、コンビニエンスストアで日本では当たり前に見えるはずであるレジ袋が貰えず有料であることに驚いた。中国で生活していくうちに、コンビニエンスストアだけでなく、スーパーマーケットでもレジ袋の有料化が徹底されていることが分かった。調べてみると、中国では2008年6月1日から厚さ0.025mm以下のポリエチレン製の袋の製造及び販売を全面禁止し、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、個人商店などのレジ袋を原則有料化され、2008年1月には全面禁止が発表されている³。

一方日本におけるプラスチック袋の有料化はどのように進められているだろうか。2019年6月3日に環境省で行われた記者会見で原田義昭環境相は、小売店で配布されるレジ袋無償配布してはならないという法令を速やかに制定したいと述べ、有料化の時期についてはできるだけ早く、東京五輪が開催される2020年夏までに導入の目処を付けたいという意向を示している⁴。日本では2013年からイトーヨーカ堂やイオンがレジ袋の全面有料化を実施しているが⁵、個別企業での取り組みに留まっており、コンビニエンスストアや一部のスーパーマーケットにおいてはレジ袋が無料で配布されている。レジ袋に関するエコへの取り組みは日本に比べて中国の方が一歩先へと進んでいることが分かる。

4. エコカーの導入

次に、環境に配慮し、地球に優しいドライビングを実現する次世代のクリーンエネルギーとして注目されているエコカーは、中国では一体どのように取り入れられているだろうか。

2017年末における世界全体EV（純電動自動車及びプラグイン・ハイブリッド自動車）保有台数は323万台であり、中国はそのうち123万台を保有しており、中国は世界のエコカーの三分之一を保有していることが分かった⁶。総人口が違うため単純には比較できないが、中国はかなり多くの台数を保有していると言える。

中国でエコカーが普及している背景としては、車両購入税の免税や、自動車メーカーへの

³ 実は意外とエコな中国!? レジ袋全面有料化とプラスチック箸でエコ化進行中
<https://hbol.jp/60954> (2019年6月26日)

⁴ レジ袋有料化で早期に法整備 環境相が表明、一律に対象
<https://r.nikkei.com/article/DGXMZO45638030T00C19A6CR8000?s=2>
(2019年6月27日)

⁵ 実は意外とエコな中国!? レジ袋全面有料化とプラスチック箸でエコ化進行中
<https://hbol.jp/60954> (2019年7月5日)

⁶ EV 大国へ国家あげてひた走る中国——世界の4割保有、上位占める中国ブランド
<https://www.businessinsider.jp/post-163393> (2019年6月27日)

補助金支給、ガソリン車を製造しているメーカーに対する新規設立禁止など、中国政府が行っている様々な優遇政策が背景にあると考えられる。また、公共充電設備数が世界第 1 位であるなど、インフラ整備が進んでいることもエコカーが普及している要因であろう⁷。

また中国では 2019 年に「NEV 規制」というエコカーに対する規制が制定された。この NEV 規制とは、各社の年間生産台数に応じて、EV または PHV (プラグインハイブリッド車)の生産を義務付けたものであり、導入当初にまず 3~4%のエコカー生産を義務付け、順次引き上げていくという規則である。例えば中国で年間 400 万台弱を生産しているドイツのフォルクスワーゲンならば 2019 年は約 12 万台の生産が必要になる⁸。

これらのことから、中国はエコカーの導入においてかなり進んだ存在にあり、力を入れていることが分かる。

5. おわりに

留学前は「エコ」や「省エネルギー」とは程遠い国だと思っていた中国だが、2008 年に開催された北京五輪では環境保護を考えた建築方法の導入や再生エネルギーの供給、工場地帯での排出ガスの制限などが実施された。多くの人々の関心が集まるオリンピックでこのような環境保護の取り組みが行われたことが中国の人々の環境意識の向上に一役買ったと考えられる。

実際に中国では、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、個人商店などのレジ袋が有料化されている。未だレジ袋の有料化に向けての具体的な目処が立たず、コンビニエンスストアや一部のスーパーマーケットにおいてレジ袋が無料で配布されている日本と比較すると一歩進んだ存在にある。

また、エコカーの保有台数においては、中国は世界のエコカー保有台数の三分の一を保有している。また 2019 年から「NEV 規制」というエコカーに対する規制が制定されるなど、エコカーの導入に力を入れていることが分かる。

今回のレポートで挙げた中国におけるエコ活動は一部に過ぎない。中国において、環境問題の解決に向けて「エコ」や「省エネルギー」につながる取り組みがどのように行われていくのかこれからも注目していきたい。

⁷ 中国のエコカー普及促進政策について

file:///C:/Users/owner/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/1Z2R7HTQ/china_1804.pdf (2019 年 6 月 27 日)

⁸ 中国のエコカー新規制、外資メーカーは対応できるのか

<https://lrx.co.jp/blog/6231/> (2019 年 6 月 27 日)